

# 鳥取市 こども・若者食堂の実践報告

～今までの取り組みと見えてきた意義～

鳥取市 こども・若者食堂  
株式会社つむぎ  
作業療法士 原田 伸吾

# こども・若者食堂とは

鳥取市中央人権福祉センターと株式会社つむぎが協働し、アウトリーチ型の地域食堂として、食を通じた伴走支援を行う団体。

子どもから高齢者まで

さまざまな方の「よりどころ」となり、心地よくゆるやかに繋がる場所です。

# ちいき食堂 in 幸町

## コミュニティカフェ

日時

12月2日・16日 参加費無料

時間 / 9:30~11:30

どなたでも参加していただけます

皆さんでお茶とお菓子で会話など心が落ち着き楽しみましょう!



お菓子作りに、興味がない場合は参加する必要はありません。誰かとゆっくりお話や相談をしても良いですし、誰とも関わらず輪の中にもいるだけでも構いません。

**Q** どんな人が対象ですか?

**A** どなたでもすべての人が対象です。

身体に障がいをお持ちの方と  
そのご家族

認知症と診断された方と  
そのご家族

聴覚障がいや悩みがある方と  
そのご家族

土曜日に一人で過ごしている  
子どもたち

高齢者の方  
地域の方など  
その他

相談したいことがある場合、誰に相談したらいいですか?

高齢者分野で働く看護師(人工内耳を装着)、作業療法士(リハビリテーション職種)、ケアマネージャーなどがスタッフとしていますので、お気軽に声をかけてください。相談の対応に適任な方をご紹介します。

心のよりどころであり、ふらっと立ち寄れるところでありたい、たくさんの方が寄り添える場でありたい。  
必要な時に必要な分だけ支え合える、そんなゆるくて居心地の良い小さな社会を作りたいと考えています。

会場 / 鳥取市人権交流プラザ ※会場まで来ていただける方

ご相談・お問い合わせ: 鳥取市中央人権福祉センター

☎0857-24-8241 メール jin-chuo@city.tottori.lg.jp



住所 / 〒680-0823鳥取市幸町151

## 経緯 2

コロナ禍で地域食堂が休止となった。

コロナ禍において、鳥取市中央人権福祉センターへの生活困窮等の相談件数が大幅に増えた。

鳥取市における子ども食堂の数は充足していることから、より支援が必要なご家庭に対する地域食堂を作ることとなった。そこに専門職としての協力を求められ、参加する。

## 経緯3

2021年11月より、鳥取市中央人権福祉センターと共同で生活困窮やヤングケアラー等、重層的課題を抱えたご家庭に対して配食支援をする伴走型支援を開始した。

要保護児童対策地域協議会に登録されたご家庭の中で、配食に同意が得られた家庭。

毎週木曜日夕方、開始時3家庭の支援をしていた。

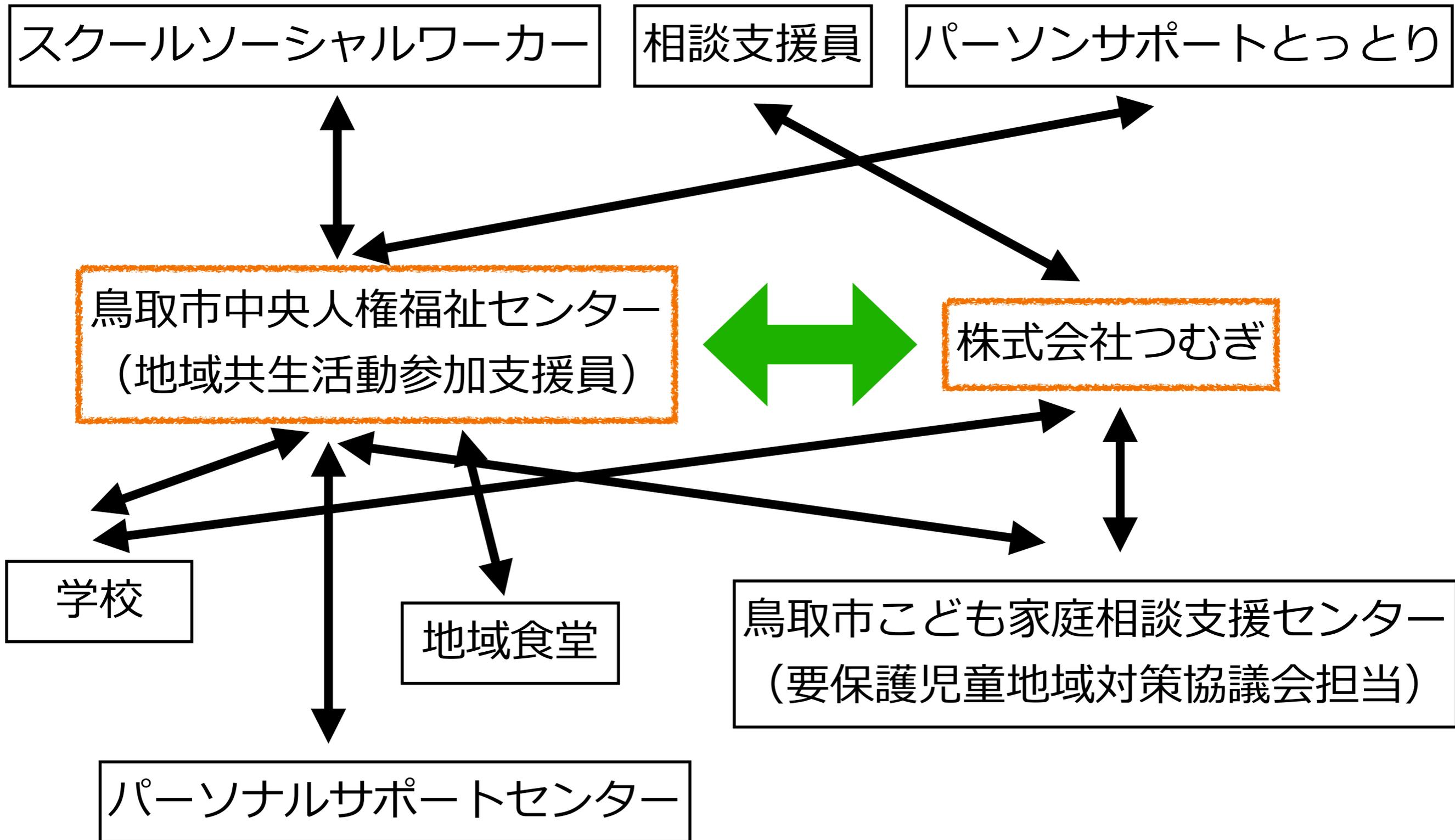
現在は火曜日、水曜日、金曜日も行なっている。

現在までで、13家庭を支援した。

現在も問い合わせが増加中

訪問は、栄養士（地域共生活動参加支援員）、保健師、作業療法士2名（うち1名はキャリアコンサルタント）

# 連携団体



## 事例

- Aさん：高校生 女性

### 【家庭環境】

- シングル家庭
- 母は精神疾患（摂食障害で低カリウム血症）
- 生活保護
- 3兄弟（長男・長女・次男）
- 次男は不登校
- ヤングケアラー（家計のやりくり、母の看病）

## 関係機関との連携

- 要保護児童地域対策協議会の会議に参加（学校、医療機関等との情報共有）
- 医療との連携（こども家庭センターを介して、地域連携室のソーシャルワーカーと情報共有）
- 学生服のリユース（地域共生活動参加支援員を介して、地域食堂や学生服のリユース事業をしている団体と連携）
- 一般企業との連携（地域共生活動参加支援員を介して食品製造販売企業に試供品を提供していただいた）
- 食事回数の確保のため、もう1つこどもたちだけで行ける、近所の地域食堂を紹介した。

## 事例

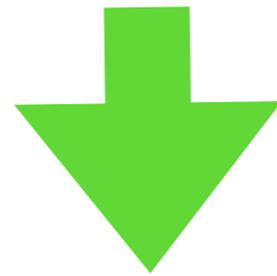
- **Aさん**：高校生 女性

### 【家庭環境】

- シングル家庭
- 母は精神疾患
- 生活保護
- 3兄弟（長男・長女・次男）
- 次男は不登校
- ヤングケアラー（家計のやりくり、母の看病）

Aさんに起きていた不公正

生活保護→進学は贅沢品という捉えられ方



高校側もAさんを想い就職を勧める（少しでも良い企業へ）

今現在就職できる企業・職種の中から選択するしかない  
（消去法的職業選択）

Aさんの希望で職業選択ができる権利が奪われている

## こども・若者食堂の関わり



- 好きなことは？
- 得意なことは？
- どんなことに興味がある？
- 本当にしたいことは？

母親を支えてきた経験

現在のウクライナ情勢をテレビで観て、戦地の方々を救いたいと昔考えていたことを思い出した



# 看護師になりたい

彼女は夢をみる

## こども・若者食堂の関わり

- 奨学金のこと
- 看護学校のこと  
(入学金・授業料・  
寮の有無など)
- 入試のこと
- 一人暮らしのこと  
など

彼女は現在、看護師を目指して学校へ通っています。

## 事業の意義

- ご家族全体の様子が見れ、変化に気づくことができる。  
(こどもたちの服装や制服の状態も見ることができる)
- こどもたちの栄養状態の確認をすることができる。
- こどもたちが学校に通えているかどうかを知ることができる。
- 親と子、両方と対話をするすることができる。
- **こどものキャリア支援。**  
⇒ 貧困の連鎖を断ち切ることが重要。